

復習シート 第三学年 国語



組	番号	名前

【説明的文章の問題】

1 次の文章は小鳩さんが国語の授業で書いた意見文です。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

先日、母と話をしているときに、「やばい」という言葉について、「今の子は、いい意味でも使うのね。」と言っていた。確かに、私たち中学生は「すごい」「すばらしい」という意味で「やばい」と使う。A、母の世代では、「とんでもなく悪い」「どうしようもない」という意味で使うらしい。

日本語が乱れていると、よく聞く。流行している若者言葉を耳にした大人が顔をしかめて、嘆く場面を想像したりする。私も母によく「正しい日本語を使いなさい。」と、しかられることがある。しかし、本当に若者の言葉は乱れているのだろうか。その実態を把握している人はそう多くはないだろう。最近の調査を検証しながら、言葉をめぐる問題を考えていきたい。

平成三十年度「国語に関する世論調査」（文化庁）によれば、「国語に関して国に期待することは何か」ということに対して、「家庭や社会で正しい言葉遣いが行われるようにする」という項目が約四割で一位であった。いかに、世間の人々が「正しい言葉遣い」に敏感になっているかがわかる。しかし、一般的に言われているように、大人は正しい言葉遣いをしていて、若者は間違った使い方をしているのだろうか。

同調査には興味深い調査結果があった。「惘然」という言葉の意味について、本来の「失望してぼんやりしている様子」という正しい意味で使っていた六十代の人は、十八・六パーセントだったのに対して、十代後半の世代では、六十九・五パーセントが正しい意味で使用していたのだった。

このことから、必ずしも、大人の方が正しい日本語を使っているとは限らないといえないだろうか。確かに、今回の調査に掲載されている他の言葉については、大人の方が、本来の意味で使用している場合が多い。しかし、若者の方が正しい意味で使用している言葉もあるのだ。

私は、言葉を使う上で大切なことは、相手に思いを伝えるということだと思う。コミュニケーションとは自分がいて、相手がいる。自分の思いだけで言葉を使つては、一方通行になってしまふ。双方向のコミュニケーションにするためには、相手のことを考え、相手に伝わる言葉で、伝えることが必要なのではないか。そのために、「正しい日本語」があると考えられる。

私たちは、日本語の担い手として、次の世代に引き継いでいく役割がある。私たちが、日々使っている日本語を振り返り、言葉を磨くことで、正しい日本語の意味が生まれると思う。

【「文学的文章の読解」の問題】

① 次の文章は小嶋さんが国語の授業で書いた物語風作文です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

香織はいつまでたっても、決められないでいた。いつもそうだ。来月の三者面談では、受検する高校を決めなくてはいけないのに、まだ決まっていない。

今だって、悩んで、迷って、結論を出せないでいる。どうしてこんなに優柔不断なのだろうと、つくづく自分が嫌になる。

日はだいぶ西に傾いている。校庭からは運動部の掛け声が響いている。

目の前にいる大悟は、何を考えているのか、その表情からは読み取れない。ずっと、遠くの空を眺めているようにも見えないし、香織を責め立てているようにも見えない。

「で、どっちにするんだ？」

大悟の声は、判決を言い渡す裁判官のように、はっきりとした口調だった。

いつもそうだ。決められない香織を差し置いて、大悟はすぐに物事を決めてしまう。今回も早々と、文化祭で演じる役を、クラスの誰よりも早く、あっさりとした。迷いが無い。そんな大悟をうらやましく思うし、不思議にも思う。どうして大悟はそんなに迷いなく決められるのだろう。

残った役はお姫様のお世話係か、カエルになったお姫様をもとに戻す魔法使いの役か。大して違いがあるわけではない。どちらもセリフは少ない。クラスのみんなは、大悟のあとに続いて、次々に立候補し、役を決めていった。あとは、私と、今日休んでいる由佳の二人だけ……。

「やっぱりさ。由佳の意見も聞いた方がいいよ。なんでもいいって言ってたけど、休んでる人を差し置いて決めるなんて、由佳がかわいそうだよ。」

① 我ながらひきょうだと思った。

「本気でそう思っているのか？」

大悟は、責めるような口調で言った。バレー部の整理体操の掛け声が聞こえる。もう日は沈もうとしている。練習はおしまいだろう。

見透かされている。結局、由佳を気づかうふりして、自分で決めたくないだけだ。由佳がどちらか決めてくれれば、自動的に自分の役が決まる。みんなに配慮しているつもりで、自分で選びたくないだけだ。

ただ、怖いだけなんだ。自分で自分のことを決めることが――。

「なんで大悟はいつもそんなに早く決められるの？」

② 窓側に立っている大悟の顔は、逆光になってよくわからない。

「迷ったりしないの？今回だって、王子様なんて、柄じゃないよ。」

大悟はだれもやりたがらないであろう、主役を一番に買って出た。

「みんな、やらないだろう。主役なんて。セリフが多いしさ。」

「だからって……。大悟がやらなくてもいいじゃない。」

「嫌なんだ。押し付け合って、決まらないの。」

ああ、そうか。大悟は自分でやりたいことを選んでるわけではないんだ。だからいつも決めるのが早いんだ。だれもやりたがらない、余りそうな嫌な役を自分から買って出たんだ。学級委員に立候補したのもそうだ。自分がやりたいということより、クラスがいがみ合わないことを優先しているんだ。それが大悟の「やりたいこと」なんだ。

「やりたくないこと、やるって辛くないの？」

復習シート 第三学年 国語



組
番号
名前

模範解答

【説明的文章の問題】

1 次の文章は小鳩さんが国語の授業で書いた意見文です。この文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

先日、母と話をしているときに、「やばい」という言葉について、「今の子は、いい意味でも使うのね。」と言っていた。確かに、私たち中学生は「すごい」「すばらしい」という意味で「やばい」と使う。A、母の世代では、「とんでもなく悪い」「どうしようもない」という意味で使うらしい。

日本語が乱れていると、よく聞く。流行している若者言葉を耳にした大人が顔をしかめて、嘆く場面を想像したりする。私も母によく「正しい日本語を使いなさい。」と、しかられることがある。しかし、本当に若者の言葉は乱れているのだろうか。その実態を把握している人はそう多くはないだろう。最近の調査を検証しながら、言葉をめぐる問題を考えていきたい。

序論 話題の提示・問題提起

平成三十年度「国語に関する世論調査」（文化庁）によれば、「国語に関して国に期待することは何か」ということに対して、「家庭や社会で正しい言葉遣いが行われるようにする」という項目が約四割で一位であった。いかに、世間の人々が「正しい言葉遣い」に敏感になっているかがわかる。しかし、一般的に言われているように、大人は正しい言葉遣いをしていて、若者は間違った使い方をしているのだろうか。

同調査には興味深い調査結果があった。「慥然」という言葉の意味について、本来の「失望してぼんやりしている様子」という正しい意味で使っていた六十代の人は、十八・六パーセントだったのに対して、十代後半の世代では、六十九・五パーセントが正しい意味で使用していたのだった。

このことから、必ずしも、大人の方が正しい日本語を使っているとは限らないといえないだろうか。確かに、今回の調査に掲載されている他の言葉については、大人の方が、本来の意味で使用している場合が多い。しかし、若者の方が正しい意味で使用している言葉もあるのだ。

本論 例・調査

私は、言葉を使う上で大切なことは、相手に思いを伝えるということだと思う。コミュニケーションとは自分がいて、相手がいる。自分の思いだけで言葉を使つては、一方通行になってしまふ。双方向のコミュニケーションにするためには、相手のことを考え、相手に伝わる言葉で、伝えることが必要なのではないか。そのために、「正しい日本語」があると考えられる。

私たちは、日本語の担い手として、次の世代に引き継いでいく役割がある。私たちが、日々使っている日本語を振り返り、言葉を磨くことで、正しい日本語の意味が生まれると思う。

結論 文章全体の意見

問一 空欄Aに入る最も適切な語句を次の1～4の中から選びなさい。

レベル7

- ア しかし イ そして ウ また エ だから

空欄の直前の文と直後の文を比較すると、逆説になっていることが分かります。そのため、「しかし」が正答となります。

ア

問二 この文章を「序論」「本論」「結論」に分けると、**レベル9** 「本論」と「結論」の初めの三字を書き抜きなさい。

「本論」

「結論」

説明文や意見文は、大きく「序論」「本論」「結論」に分けることができます。それぞれの意味段落の役割を覚えておくと、説明文や意見文を適切に読むことができます。

問三 小鳩さんが活用している調査内容と読み取れることを、次のように表にまとめました。□に入る言葉を二十字以内で書きなさい。**レベル8**

調査内容	調査から読み取れること																																				
「国語に関して国に期待することは何か」	世間の人々が「正しい言葉」に敏感になっていること。																																				
「慥然」という言葉の意味	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>大</td><td>人</td><td>の</td><td>方</td><td>が</td><td>正</td><td>し</td><td>い</td><td>意</td> </tr> <tr> <td>で</td><td>使</td><td>用</td><td>し</td><td>て</td><td>い</td><td>る</td><td>と</td><td>は</td> </tr> <tr> <td>限</td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td> </tr> <tr> <td>ら</td><td>な</td><td>い</td><td>こ</td><td>と</td><td>。</td><td> </td><td> </td><td> </td> </tr> </table>	大	人	の	方	が	正	し	い	意	で	使	用	し	て	い	る	と	は	限									ら	な	い	こ	と	。			
大	人	の	方	が	正	し	い	意																													
で	使	用	し	て	い	る	と	は																													
限																																					
ら	な	い	こ	と	。																																

本論の赤線のところを、自分の言葉で、二十字以内で言い換えてみましょう。

【「文学的文章の読解」の問題】

2 次の文章は小嶋さんが国語の授業で書いた物語風作文です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

香織はいつまでたっても、決められないでいた。いつもそうだ。来月の三者面談では、受検する高校を決めなくてはいけないのに、まだ決まっていない。

今だって、悩んで、迷って、結論を出せないでいる。どうしてこんなに優柔不断なのだろうと、つくづく自分が嫌になる。

日はだいぶ西に傾いている。校庭からは運動部の掛け声が響いている。

目の前にいる大悟は、何を考えているのか、その表情からは読み取れない。ずっと、遠くの方を眺めている。

太陽の描写が三か所あります。

だんだんと沈んでいく太陽の様子で、香織の心情を表しています。

景色や天気などで登場人物の心情をあらすことを、情景描写といえます。

情景描写に着目すると、登場人物の心情を読み取ることができます。

残った役はお姫様のお世話係か、カエルになったお姫様をもとに戻す魔法使いの役か。大して違いがあるわけではない。どちらもセリフは少ない。クラスのみんなは、大悟のあとに続いて、次々に立候補し、役を決めていった。あとは、私と、今日休んでいる由佳の二人だけ……。

「やっぱりさ。由佳の意見も聞いた方がいいよ。なんでもいいって言うってたけど、休んでる人を差し置いて決めるなんて、由佳がかわいそうだよ。」

① 我ながらひきょうだと思った。

「本気でそう思っているのか？」

大悟は、責めるような口調で言った。バレー部の整理体操の掛け声が聞こえる。もう、日は沈もうとしている。練習はおしまいだろう。

見透がされている。結局、由佳を気づかうふりして、自分で決めたくないだけだ。由佳

がどちらか決めてくれれば、自動的に自分の役が決まる。みんなに配慮しているつもりで、自分で選びたくないだけだ。

ただ、怖いだけなんだ。自分で自分のことを決めることが……。

なんで大悟はいつもそんなに早く決められるの？

直前の会話に注目しましょう。

② 窓側に立っている大悟の顔は、逆光になってよくわからない。

「迷ったりしないの？今回だって、王子様なんて、柄じゃないよ。」

大悟はだれもやりたがらないであろう、主役を一番に買って出た。

「みんな、やらないだろう。主役なんて。セリフが多いしさ。」

「だからって……。大悟がやらなくてもいいじゃない。」

「嫌なんだ。押し付け合って、決まらないの。」

ああ、そうか。大悟は自分でやりたいことを選んでるわけではないんだ。だからいつも決めるのが早いんだ。だれもやりたがらない、余りそうな嫌な役を自分から買って出たんだ。学級委員に立候補したのもそうだ。自分がやりたいということより、クラスがいがみ合わないことを優先しているんだ。それが大悟の「やりたいこと」なんだ。

「やりたくないこと、やるって辛くないの？」

「やりたいことなんて、本当にあるのか？やるべきこと、が正しい言い方じゃないか。」この言葉に、大悟の強い意志を感じた。「やりたいこと」よりも「やるべきこと」。大悟の中に、一本、幹みたいなものが見えた気がした。太くて大きい幹。大悟は、大人になるうとしている。それに比べて、わたしは……。香織は自分の答えを言いかけた。そのとき、スピーカーから完全下校時刻を知らせる放送が流れた。香織の言葉は、かき消された。

③日は、完全に沈んだ。

問一 ①「我ながら、ひきようだと思った。」のはなぜですか。「くから」に続く形で、二十一字で書き抜きなさい。（句読点は一字に含む）

決	由							
め	佳							
た	を							
く	気							
な	づ							
い	か							
		から						
			う					
			ふ					
			り					
			し					
			て					
			、					
			自					
			分					
			で					

由佳の話を持ち出したのは、自分で役をきめたくないからです。

直前の香織の発言から、大悟の考えがわからない香織の気持ちがわかります。

問二 ②「窓側に立っている大悟の顔は、逆光になってよくわからない。」とありますが、この表現はどのようなことを表していますか。一つ選び、記号で答えなさい。

レベル9

ア、香織が大悟の考えを図りかねている様子。
 イ、決められない香織のことを、大悟が怒っている様子。
 ウ、香織が自分を責める大悟に反感を抱いている様子。
 エ、大悟が香織のひきょうさにあきれている様子。

問三 ③「日は、完全に沈んだ」は誰の、どんな様子を表していますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

情景描写に着目すると、登場人物の気持ちを読み取れます。最後まで、役を決められなかった香織のふがいなさを表しています。

エ、文化祭の役すら、まともに決められない香織のふがいなさ。

エ

ア